

●当社次世代を担う超小型立形研削盤を開発
～新製品「USG-1」～

2016年7月1日に小型量産パーツの加工に高い評価をいただいているベストセラー機種(IGVシリーズ)に比べ、機械幅を大幅に抑えた超小型立形研削盤「USG-1」を発表いたしました。

新製品のコンセプトは「工場の生産性向上を実現、フロアスペースの効率を極限まで追求した超小型立形研削盤」。量産パーツメーカーへの戦略機種として、当社の次世代を担う立形研削盤の1つです。

「USG-1」は、機械間口を600mm(従来機比45%削減)にすることで、工場のフロアスペースを66%削減することができ、工場の面積生産性を飛躍的に向上させます。

また、内研1軸仕様、外研1軸仕様、そして内研軸と外研軸の2本の砥石軸を搭載させた2スピンドル仕様の計3種類の機種をラインナップしております。2スピンドル仕様は2本の砥石軸により、効率よくワンチャックでの内径・外径・端面の複合加工を実現いたします。

今後とも当社は、お客様のニーズを満たす製品・技術の開発に常にチャレンジし、世界の製造業の発展に貢献してまいります。



USG-1
超小型立形研削盤
自動車用ミッションギア等
小型量産部品の加工向け

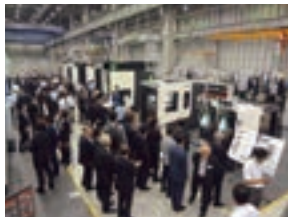
●太陽工機プライベートショー2016

2016年7月14日～15日の2日間、当社本社工場にて太陽工機プライベートショー2016を開催いたしました。当プライベートショーは2009年より毎年開催しており、2012年からは2日目に一般の方向けの公開も行ってまいります。

展示会では新製品の超小型立形研削盤「USG-1」を始め、昨年の発表直後から好評をいただいている「PGV-3」や「CVG-6」、高精度・高機能を追求した「NVGHシリーズ」、汎用性を重視した「Vertical Mate®シリーズ」を含む、合計30台以上の多彩なラインナップを出展いたしました。

今年も昨年同様1,000人を超えるお客様にご来場いただき、当社製品をアピールする絶好の場となりました。展示会中には当初計画を上回る受注・引合をいただくとともに、今後の技術開発や事業展開につながる貴重なご意見やご要望もいただくことができ、大変実りの多い展示会となりました。

今後も当社は、お客様の多様なニーズに確かな応えを提供し続けてまいります。



(2016年6月30日現在)

●設立年月日	1986年3月14日
●資本金	7億32万8,200円
●発行可能株式総数	9,000,000株
●発行済株式の総数	2,978,200株
●本社所在地	新潟県長岡市西陵町221番35
●従業員	184名
●主な事業内容	工作機械(各種研削盤)の開発・製造及び販売

●ネットワーク

国内拠点	本社・工場(長岡)	海外駐在拠点	中国(北京)(上海)
	東部営業所(さいたま)		アメリカ(シカゴ)
	中部営業所(名古屋)		ヨーロッパ
	西部営業所(大阪)		

●株主メモ

事業年度	1月1日～12月31日
期末配当金受領 株主確定日	12月31日
中間配当金受領 株主確定日	6月30日
定時株主総会	毎年3月
株主名簿管理人 および特別口座の 口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社

同連絡先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 TEL 0120-782-031(通話料無料)
------	--

上場証券取引所	東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)
---------	-----------------------

公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.taiyokoki.com (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)
-------	---

ホームページのご案内

当社の詳しい情報はホームページよりご覧いただけます。



<http://www.taiyokoki.com>

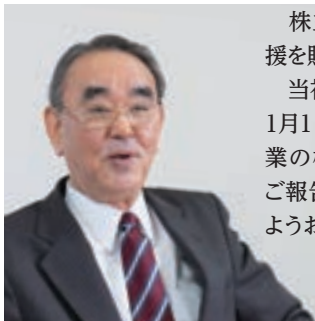


第32期 (中間期)
Business Report

2016年1月1日 ~ 2016年6月30日

株式会社 太陽工機
(証券コード:6164)

株主の皆様へ



株主の皆様には平素より格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

当社における第32期中間期(2016年1月1日から2016年6月30日まで)の事業の概況をとりまとめましたので、ここにご報告を申し上げます。ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

2016年9月

代表取締役社長 渡辺 登

当中間期(第2四半期)の営業概況

当第2四半期累計期間の工作機械業界は、日本工作機械工業会が発表した工作機械受注実績(平成28年1月1日から6月30日まで)が前年同期比で22.0%減少し、外需では中国経済の減速や米国需要の一服感、内需ではものづくり補助金を見据えた買い控えにより伸び悩みが見られました。

こうした状況下においても、当社の受注状況は第1四半期に比べ徐々に増加しております。国内においては自動車関連企業からの大口受注及び産業機械関連企業や工作機械関連企業、軸受関連企業からの積極的な設備投資需要を多数獲得し、受注は堅調に推移いたしました。また海外においては、営業活動強化のため米州と欧州に技術営業スタッフを配置したことにより、現地ユーザーからの受注や引合が順調に増加してきております。

営業施策としては、欧州で最大の研削専門展示会であるGrindTec2016やグループ企業主催の国内外の展示会に出展し、ユーザー層を拡大するとともに、設備投資ニーズの掘り起こしを積極的に行ってまいりました。

製品面では、7月に開催した当社プライベートショーでの発表に向け、自動車部品等の量産加工をターゲットとした超小型立形研削盤「USG-1」の開発に注力いたしました。

当第2四半期累計期間の受注高は2,945,860千円となりました。売上高につきましては、3,378,137千円となりました。

損益につきましては、営業利益462,305千円、経常利益455,660千円、四半期純利益288,768千円となりました。

(注)第31期より決算期を3月31日から12月31日に変更しております。これに伴い、当第2四半期(平成28年1月1日から平成28年6月30日まで)と比較対象となる前第2四半期(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)の期間が異なるため、対前年同四半期比増減率については記載しておりません。

当中間期の業績

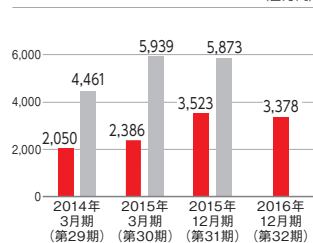
売上高
33億78百万円

営業利益
4億62百万円

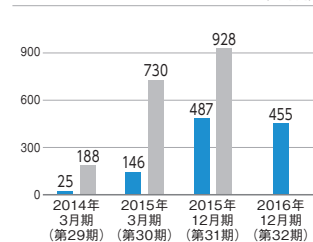
経常利益
4億55百万円

四半期純利益
2億88百万円

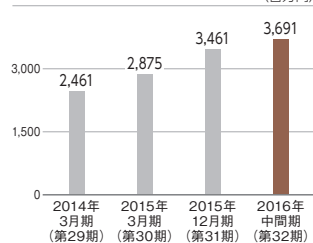
売上高 (百万円)



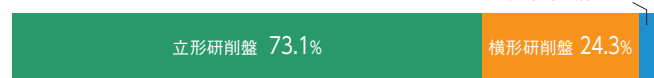
経常利益 (百万円)



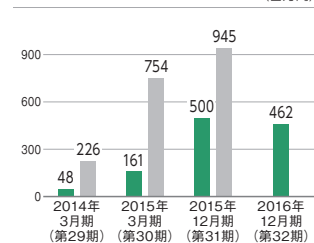
純資産 (百万円)



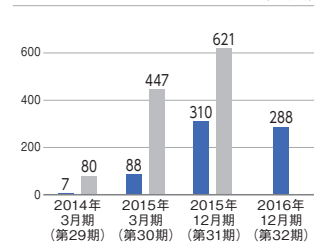
品目別売上高構成比



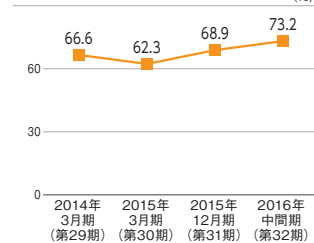
営業利益 (百万円)



純利益 (百万円)



自己資本比率 (%)



(注)第31期より決算期を3月31日から12月31日に変更しております。そのため、決算期変更の経過期間となる第31期は9ヶ月間の変則決算となります。また中間につきましては、第29期から第31期は4月1日から9月30日まで、第32期は1月1日から6月30日までの6ヶ月間となります。

財務諸表

(注)金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

貸借対照表

(単位:千円)

科目	前期末 2015年12月31日現在	当中間期末 2016年6月30日現在
【資産の部】		
流動資産	3,650,703	3,793,167
固定資産	1,372,113	1,248,685
(有形固定資産)	(1,258,118)	(1,128,669)
(無形固定資産)	(22,027)	(33,987)
(投資その他の資産)	(91,967)	(86,028)
資産合計	5,022,816	5,041,852
【負債の部】		
流動負債	917,437	740,190
固定負債	643,937	610,267
負債合計	1,561,374	1,350,457
【純資産の部】		
株主資本	3,461,441	3,691,394
資本金	700,328	700,328
資本剰余金	472,960	472,960
利益剰余金	2,321,871	2,551,873
自己株式	△33,718	△33,768
純資産合計	3,461,441	3,691,394
負債純資産合計	5,022,816	5,041,852

損益計算書

(単位:千円)

科目	前中間期 自2015年4月1日 至2015年9月30日	当中間期 自2016年1月1日 至2016年6月30日
売上高	3,523,878	3,378,137
売上原価	2,435,784	2,352,838
売上総利益	1,088,094	1,025,299
販売費及び一般管理費	587,297	562,994
営業利益	500,796	462,305
営業外収益	2,776	6,739
営業外費用	15,909	13,383
経常利益	487,663	455,660
特別利益	-	2,036
税引前四半期純利益	487,663	457,696
法人税等合計	176,706	168,928
四半期純利益	310,956	288,768